

8-4-11 河川構造物専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 河川構造物専門委員会の開催

委員会開催回数：10回

技術委員会をはじめ各委員会からの報告・連絡、及び、河川構造物専門委員会での取り組み内容について、検討・審議を行った。コロナ禍の終息により、対面会議を主体とし Zoom 等による Web 会議も併用し開催した。

(2) 「河川砂防技術基準検討委員会 トンネル構造による河川分科会」への臨時委員派遣

河川砂防技術基準-設計編-第1章河川構造物の設計の中の「第10節トンネル構造による河川」の改定に向け国土交通省水管理・国土保全局が設置した「河川砂防技術基準検討委員会 トンネル構造による河川分科会」への参加要請を受け、トンネル河川におけるシールドや山岳トンネルの設計に係る経験者の立場から臨時委員として1名派遣した。

(3) 河川砂防技術基準〔設計編〕の改定に伴う講習会の企画・実施

河川構造物専門委員会では、令和元年度以降「河川構造物の耐震性能照査指針」や「河川砂防技術基準〔設計編〕」の改定に伴う講習会の開催。また、令和4年度には、若手技術者の技術力向上を目的とした「河川砂防技術基準〔設計編〕」に関する講習会を実施した。令和5年以降も順次改定が追加されており、改定により、旧基準と新基準の違いや改定の経緯等が十分理解できていないことも多く、担当技術者が悩みながら業務に従事していることが想定されたため、日頃の業務執行上での悩み解消や基準への理解の深化を目的として講習会を実施した。

実施後のアンケートでは80%以上の方が満足と回答し次の開催希望も多かったため、継続開催を予定する。

(4) 「詳細設計照査要領（建コン版）」の作成

河川構造物の詳細設計照査要領は、現在3工種が国土交通省より公表されているが、8工種

は未整備のままである。令和4年度には堰編を建コン版として公表した。令和6年度は新たに水門編を建コン版として作成、照査要領の充実化を図り、会員HPに公表した。

(5) 照査特別WGへの参画、品質セミナー講師派遣

照査特別WGへ委員を派遣し、設計ミス防止のための「品質セミナー」に向けて、河川構造物の設計におけるエラー事例の収集と、エラー事例を基にしたテキスト、セミナー用PPTを作成した。また、今年のセミナーは、ビデオ配信による実施となったため、撮影時の講師を1名派遣した。

(6) 全国建設研修センターへの講師派遣

(一財) 全国建設研修センターで開催される「河川構造物設計研修」に対して、平成21年度より共催で取り組み、河川構造物の特徴・設計の考え方、基礎工設計・演習、擁壁の構造設計手法、樋門の設計・演習に関する4日間の研修に対してテキストを作成し講師を3名派遣した。

(7) その他

主な活動を以下に示す。

- a) 対外活動委員会WG(水機構)への参画
- b) 維持管理対策WGへの参画
- c) 業務研究発表会WGへの参画
- d) RCCM 自主学習教材改定作業
- e) ドローンを活用した河川巡視・点検への適用検討会への参画

2. 次年度の活動について

- ・照査特別WGへの参画、品質セミナーテキスト作成と講師の派遣
- ・「河川構造物設計研修」講師派遣
- ・RCCM 教材の改訂作業への参画（継続）
- ・各種委員会・WG（CIM 関連等）への参画
- ・河川構造物の技術に関する講習会の開催
- ・詳細設計照査要領の改訂版作成
- ・災害発生時は、災害対応とその活動報告

(河川構造物専門委員会委員長 磯部 滋)